

第5回ウィズあかし運営委員会 実施報告

日 時：令和元年 11 月 11 日(月) 18:00～20:15

場 所：ウィズあかし 8 階 学習室 803 フリースペース

参加者：運営委員 8 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 15 名 市職員 2 名

1. あいさつ (明石コミュニティ創造協会 理事長 永野 潔)

2. 出席者近況報告

参加者が 5 グループに分かれ、ひとりずつ自己紹介を兼ねて近況報告を行いました。

3. ウィズあかし事務局より

1) 前回までの振り返り

第 4 回委員会の内容を中心に振り返りを行いました。

2) 明石市における男女共同参画推進の取り組みについて

市男女共同参画課及びウィズあかし事務局より「あかし男女共同参画プラン」に基づく明石市の男女共同参画推進施策と、それぞれの取り組みについて紹介。

4. 川西市市民活動支援センター・男女共同参画センター (パレットかわにし) 三井センター長より川西市の取り組みをご紹介いただきました。

テーマ：「川西市における男女共同参画推進施策とパレットかわにしの取り組みについて」

5. 意見交換および全体共有

グループごとに意見交換を行い、各委員より下記の意見が出されました。

【テーマ：川西市の取り組みを聞いての感想と質問】

○パレットかわにしを訪れたことがあるが、センターの雰囲気もスタッフの対応もとても感じがよかった。

○市民活動と男女共同参画の窓口が一本になっているのは合理的だと思う。

○パレットかわにしで少人数での運営が可能となっているのはなぜか。

→ (三井さん) スタッフは歩く「男女共同参画センター」「市民活動支援センター」である。スタッフひとりひとりがセンターの「理念」を理解し、日々意識し体現し発信する必要がある。

○必要な人、届けたい人に事業の情報を伝えることが難しい。

→ (三井さん) 多くの人の関心を集めそうな講座に、いかに男女共同参画の理念を盛り込めるかが大切。

【テーマ：男女共同参画の今後の取り組みについて】

- 「男女共同参画」という言葉の概念が広すぎて具体的なイメージが浮かびにくい。
- 特に男性には「男女共同参画」は内容が分かりにくく参加しにくい。
- 上手く濃度を薄め、様々な要素を入れて、「男女共同参画」のハードルを下げるべき。
- 女性だから強い部分もある。一方、女性ならではの生きづらさは尽きない。
- 女性だけでなく、男性のエンパワメントも必要。
- 女性相談に代表される『要配慮』の取り扱いをどうするか。
 - （三井さん）女性相談は他の事業とは別と考えるべき。クライアントの対応にも知識と経験が必要。
- SNSで参加者を募集しているところもある。人の集まり方が変わってきている。
- 「サロン」は「安心して参加できる」ことが大切。雰囲気や様子が伝わる工夫を。
- ウィズあかしで行っている「サロン」のノウハウは地域でも活用できるのではないか。
 - （三井さん）ウィズあかしで学んだ人が「メッセンジャー」として地域に出ていくことが理想。
- 窓口や地域で、情報のアウトリーチが必要。
- ウィズあかしは市民の出来ることを掘り起こす場所。
- 男女ともに40～50代はケア・エンパワメントが必要な世代ではないか。年代にフォーカスした事業の展開も検討すべきか。
- ケア・エンパワメントがうまく機能すれば、生活保護などの福祉サービスに移行する人の数を少しでも減らせるのでは？ 今後は福祉分野との関係も密接になる？
- ウィズあかしやテーマ型の市民活動では、女性の参加が増えた。もっと地域活動に女性が出てきてほしい。
- 一定の年齢以上の男性に根強い、男尊女卑的、家父長的な感覚はどうすべき？ 地域の会議でも、この層の無意識の発言が、現役世代のモチベーションを下げてしまう。
 - （三井さん）伝え方を変えながら、みんなで意識を変えていく。アサーションが必要。
- 旧来的な地域活動に女性が関わるにはどうすべき？
 - （三井さん）組織の意識改革に加えて、地域に関わるきっかけになるスキル（ホワイトボードミーティングなど）を学ぶ機会があればいい。
- 市内で行われている男女共同参画関連のイベントや運動をピックアップして広報しては。
- 男女共同参画課は地域にもっとアプローチすべき。社会福祉協議会や福祉部門は地域に売り込みに来ている。
- 「男女共同参画」と聞くと躊躇してしまう。行政からもわかりやすいアピールが欲しい。

6. 今後の運営委員会について

次回第6回は令和2年2月に開催予定。